

BUNTO NEWS

穏やかへ繋がる場をつくっていく

一級建築士「きりん」

武保 学 さん



TOPICS

『間』があるのが良いなど

伊賀市上林に移住し1年半前に自邸を設計された一級建築事務所「きりん」の武保学さん。この地に住まいを持つとうと思っただのは、奥様が大事に思い続けている彼女の祖母であったこと。そして元々この地に住み続けている彼女の祖母を近くで見守りたいという思いと、幾つかの希望が重なりあったからです。

家を建てていく際には場所の環境を見渡しながら、祖母の暮らしをできるだけ変えないことを念頭に、これまでの体験を存分に活かしながら進めました。

出来上がった家には、中央部に自然の風が通る開放的な中庭と玄関があり、2棟を渡る廊下の役目も果たしています。風と光をふんだんに取り込みながら、それぞれの関係に「間」を持たせていくという発想が活かされました。それは家族それぞれに心地いい開放感を生んでいきます。住みながら杉のいい香りが少しずつ馴染みゆっくり色を変え、自然の風景と穏やかに繋がりを持っていました。朝には柔らかな光で満たされた場が生まれ、夜には体をゆっくりと休ませる静かな時が流れていきます。

元々あった環境を大切にという考え方から、視野を広げて伊賀の地域へと目を向けた時、「風景や建物を残しながら今の時代と折り合える空間をつくっていききたい」と空き家を生かすリノベーションにも取り組んでいます。

「僕は伊賀で生まれ育ったわけではないですが、この場所にいさせてもらうことで、ようやく自分のアイデンティティが生まれたように思います。都市部のように強烈な刺激が少ない分、本当に自分の心や身体、生き方に必要なものを問いかけられる『間』があるのが良いなど。これからも場所に許されるような暮らしや仕事を続けていけば、自分も家族もこの街も、他のどこにも無いオリジナルな強さを持つのではと思っています」

ゆっくりと大事に語る彼の言葉と眼差しは優しく、この穏やかな丘の上に流れる景色と馴染んでいくのです。

（文 広報事業委員 伊藤尚美）



NHK津放送局 キャスター
まつい 松井 かれん さん
(伊賀市出身)

「まるっとみえ!」
総合テレビ夕方6時30分~7時、
月~金曜日まで放送。

「三重のニュース、情報をいち早く届けられる立場にいて、郷土の風景を感じながら育ってきた私だから、地元の話画面で伝えることが、恩返しと思ってやりがいを感じています。みなさんに、同じ目線で、わかりやすく、等身大の自分の言葉で。1本のニュースが、心に残り、ちょっと考えてみようかなと思っただけのようなキャスターでありたい」と。爽やかな笑顔が印象的でした。

(文 広報事業委員 東出欣子)

高校の野球部のマネージャーをしていたとき、試合で流れる場内アナウンスを聞いて、その声に魅力を感じ、やってみたいと思いました。アナウンスの練習に力を入れ、何度かアナウンスをしていたある時、「うまいなあ」と褒めてくださる方がいて、「私は、しゃべる仕事に向いている」と思うようになったことが今の仕事につながっています。

キャスター5年目の松井さん。ニュース1本が1分半。内容を理解し、自分がどう感じ、何を考えなければならないか、視聴者の方に与える影響は、など考え話をしているそうです。また、柔らかくかみ砕いて伝えることも大切にされています。ただ、目まぐるしく動く毎日のニュースを、自分の思いを言うだけでなく、公平な立場で伝えたい。だから、安易に発言はできないという難しさもあるようです。

心に残るようなニュースを、等身大の自分の言葉で伝えたい!

頑張ります!!

しゃべる仕事がしたい!



全日本ナショナルチーム所属
かじ た 梶田 ひかる さん
(伊賀上野ケーブルテレビ株式会社)



来年三重県で開催されるとわか国体への出場を目指し、そこで優勝することが目標と力強く語ってくれた。仕事の後、毎日2~3時間6ゲームから10ゲームの練習を欠かさず日々研鑽している。

老若男女が楽しめるボウリングの魅力を皆さんに知っていただきたいと、さわやかな笑顔で話してくれた。

(文 広報事業委員 池澤基善・写真 山口貴史)

ボウリングは技術はもちろんのこと、頭脳プレーも要求され、集中力と忍耐力も問われる気持の表われるスポーツである。

梶田さんは岡山県総社市で生まれ、小学4年生頃からボウリングに魅せられてしまったそう。地元高校卒業後、ボウリング特待生として岐阜朝日大学へ進学し、数々の実績を重ねている。初めてパーフェクトを達成したのは大学1年の時、その快感は忘れられないという。(以後何度もパーフェクトを出している)

昨年(2019)には8年ぶり2度目のNHK杯で優勝し、2年に1度の世界選手権大会に出場した。日本代表として過去3回連続世界選手権大会に出場している。(ちなみに日本代表は女子6名)

夢ing

ボウリングに魅せられて

こだわり
人生乾杯

「心の共鳴」

70代から高校生まで。今でもこれだけ幅広い年齢層の教え子が慕って集まってくる、こんな先生は珍しいのではないのでしょうか。厳しい指導の中には生徒を信頼した独特の温かさがあり、「昌平マジック」といわれる魔法にかかった生徒は、すばらしい結果を出し続けてきました。

大学卒業後、昭和39年に名張高校に数学科教員として赴任された先生は、自身から大学までやられていたこともあり吹奏楽部顧問に。部員数名のクラブは3年間で大編成になり、以後7年間県大会で連続優勝するまでに成長していきましました。先生と生徒が一体となって活動している様子は、当時「音楽共同体」と謳われたそうです。

昭和49年に上野高校転勤後も7年間、吹奏楽顧問をされましたが、ここで転機が訪れます。

昭和56年、当時「弦奏部」といわれていた、後のギターマンドリン部の顧問を任されます。吹奏楽しか経験のない先生ですが、部員からの熱心な思いに気持ちをおかされ応援することになりました。そしてついに上高ギタマンは、全国大会で最高賞にあたる朝日新聞社賞を獲得するクラブにまで成長していきます。

先生の指導は生徒の自主性に任せた「生徒による生徒のための活動」。クラブ活動は選曲、練習、指揮などすべて部員による完全自主運営に徹し、先生は生徒からのトラブルや悩みに対する相談や助言など、演奏に対してはポイントの指導をするだけだそうです。この先生と生徒との強い絆と信頼関係、また生徒同士の固い繋がりが、音楽を通じてお互いを成長させ、感動を生む演奏にもつながっています。先生が求め続けた「心の共鳴」。先生と出会えた多くの教え子の世界で、永遠に鳴らし続けてくれることでしょう。

(文・写真 広報事業委員 木宮康介)



よし なが しょう へい
吉永 昌平 さん

三重県ギターマンドリン連盟顧問
伊賀シンフォニックアカデミー吹奏楽団会長
マンドリンアンサンブルセシリア顧問



CLASSIC 「音楽～人と人をつなぐもの～」
伊賀コミュニティオーケストラ

(文責 ヴィオラ 山本浩子)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国でコンサートやイベント等の延期や中止が相次いでいます。私たち伊賀コミュニティオーケストラも5月に予定していた第15回さんさん名曲コンサートが中止になり、この原稿を書いている4月末現在、団員が集まった活動を休止しています。月2回、日曜の夜に、普段は各地でそれぞれの仕事をしているメンバーが楽器を持って集まり、大好きな音楽をみんなでつくっていく。これまでも当たり前に来ていたことがいかに幸せなことなのかを今、実感しています。

この困難な状況がいつ終わるのかわからない、不安な日々が続きます。この苦境を乗り越えるため、命を守るため、不要不急の外出を避け家にいる時間が増えました。せっかくならばこの時間を有意義に過ごしたいものです。今までできなかったいろいろなことに取り組める機会になるのかもしれない。

「音楽を聴く」ということも取り組めることの一つでしょうか。音楽を聴いて勇気が出た、笑顔になった、ほっとした、癒された。というようなことがあると思います。そう、「こんなときこそ、心に音楽を！」ですね。TV、CD、動画配信等で懐かしい曲を聴いて当時の思い出を馳せたり、今でもあまり聴かなかった曲を聴いてみたり。ぜひ、前回のクラシックコラムでも紹介させていただいた、さんさんコンサートで演奏する予定だった曲も聴いてみてください。

伊賀コミュニティオーケストラもただ今充電中。楽器の練習、楽曲の研究など、団員それぞれができることに、今はひとりで取り組んでいます。でもやはりみんなで合奏するのが待ち遠しいです。みんなで集まり、ひとつの音楽をつくっていく。そしてそれをコンサート会場で、お客様に聴いていただく。お客様と同じ時間同じ空間で音楽を共有すること。それが私たちの目標であり、喜びです。音楽を通して、人と人がつながることができるとは、素晴らしいことです。私たちは、みなさんとコンサートでお会いできる日を心待ちにしています。

「しゅわつと伊賀」 伊藤たかみ

1971年生 上野高校出身、早大卒 小説家
「八月の路上に捨てる」(文藝春秋)で第135回芥川賞。「きぶそん」(ポプラ社、坪田譲治文学賞)など児童書も手がける。

都内暮らしのせいか、伊賀という言葉に敏感だ。たまたまテレビなどで目にする、つい見いつてしまう。

というわけで大阪に本社のある、某メーカー炭酸水だ。あの、伊賀の水で作った強炭酸水というやつ。関東でもCMをよく見かけるものだから、ちよくちよく買っては飲んでるのだけれど、強い刺激が仕事の気分転換にいい。

しかし、頭がすっきりしたところでふと思いだしてしまった。三重県は毎年、炭酸飲料の消費量が日本全国でワーストに近いんじゃないかと。

さっそく調べてみたら、やっぱりそうでした。年によって順位が異なるものの、三重県は、静岡や鹿児島と共にアンチ炭酸飲料の御三家(?)となっている。まあ、この御三家はお茶の三大生産地でもあるわけだから、その辺に理由があるのだろう。

とはいえ、真実を知ってうしろめたく思ってしまったのは僕だけだろうか。わが家ではウケのよくないものを、よその家に売ってまわっているような、そつでないような。いや、でも大阪の会社だし……。

だがしかし、新しい名物やヒット商品というの、おしなべてこんなふうには生まれるものなのだという。

たとえば『さっばる雪まつり』だって、札

幌市の雪捨て場だった、大通り公園の雪を使って作られた像が始まりとなったそうではないか。かつて大量にとれたサザエを肉の代用品にした『サザエカレー』なんていうのも、房総や隠岐といったところで新しいお土産となっている。地元では特に必要とも思えず、急がなくなつてその辺に転がっているようなものを、一歩外に出れば立派なイベントや

商品にばけてしまうわけだ。

さて、必要でもなく急ぎもしないものというなら、これはある意味「不要不急」なものでもある。もうコロナの話題はうんざりだけれど、こちらの不要不急は、いつか経済をまわすかもしれないので、どこかにもっと落つちてないかと探してみたい。考えてみれば、僕のような小説家という連中は、昔からこういう不要不急を大事にしてきたのだ。

大体、「小説」という名称からして不要不急のチャンピオンである。一体全体、どうして「小」なのか。一説には大昔の中国で、いい伝えや巷のうわさ話など、とるにたらない話をかき集めた書物のジャンルを、こう呼ぶようになったのだと聞いたことがある。

真偽のほどはともかく、この、とるにたらないものを集めて売ろうというのは立派なアイデアだ。新聞もネットもない時代、その町ではありふれた話だって、よそでは売り物になるかもしれない。

というわけで、小説でヒットしそうな伊賀のネタが、忍者や芭蕉の他に転がっていないものだろうか。ありそうでないから困る。

それからすると、炭酸水のことを思いついた人はえらいものだ。お茶にびつたりと合う伊賀の水に、よりにもよって、強、までつけて売りだしちゃおうなんて、ちよつと思いつかないもの。

伊藤たかみの

だいたい ええわさ



Vol.6

文化の花を大切にしましょう!



みんなで乗り越えましょう!
またこの場所で会える日まで!



伊賀市も閉塞感でいっぱいですが



うがい
てあらい
マスク



一日も早いウィルスの終息には一人ひとりの行動が重要で、
「うがい」「てあらい」「マスク」の3つの「I」の多いイベントも中止や延期となりました。

新型コロナウィルス感染症拡大の影響で「うがい」「てあらい」「マスク」の多いイベントも中止や延期となりました。

伊賀市文化会館



青山の風景をこよなく愛した水墨画家、故種月 明（あきづき あきら）さんにより建てられた「青山讃頌舎」。
 種月さんが亡くなられた後、ご遺族から市に寄贈され、一部改修などの整備が施され、伊賀市で初めての美術作品等の展示専用施設「伊賀市 ミュージアム青山讃頌舎（うたのいえ）」として開館しました。
 「青山讃頌舎」という名前は、種月さんが地名の青山とその豊かな山河を称える意味で命名されたものです。

美意識の象徴「展示室」、「茶室」と「庭園」

種月明さんが「日月舎」と名付けた展示室と、「聴樹庵」と名付けた茶室は、その周囲の庭園とともに種月さんの芸術世界、美意識の象徴ともいえる美しいもので、檜造りの和建築が美しい展示室では、年数回の企画展と常設展を開催します。本格的な茶事でもできるような設備が整った茶室は周囲の庭園も含めて静かで趣のある施設としてご利用いただけるよう借用に供します。庭園には、種月さんが収集された石像があちこちに展示されていて、自然をととても大切にされた種月さんの美意識が詰まった空間です。皆様に優れた芸術作品を楽しみ心豊かなひとときをお過ごしいただけるよう努めてまいります。



Renewal
Open

観覧料（1人）300円 （団体）200円

18歳未満は無料 茶室利用料金（1,000円／1時間）

開館時間 10:00～16:30

休館日 火曜日・12/29～1/3

展示室の開館日は、展覧会等開催会期となりますので、HP をご覧いただくか、事前にお問い合わせください。

伊賀市 ミュージアム青山讃頌舎 〒518-0221 三重県伊賀市別府7 1 8 番地の3 ☎0595-52-2100 WEB <http://www.city.iga.jp/>

（茶室のお問合せ・お申込）青山ホール 三重県伊賀市阿保1 4 1 1-1 ☎0595-52-1109

BUNTO ART EXHIBITION

新型コロナウイルスの感染症の拡大状況によっては、変更する場合があります。

生活工芸展Ⅲ in 史跡旧崇広堂

2000年から2010年にかけて日本の工芸に大きな変化がありました。その背景には木工作家がまだ家具製作が中心だった時代にひとり小さな木の器を作り、工芸と生活を結びつける活動を続けてきた三谷龍二の仕事があり、その流れは「生活工芸」という言葉を生み出し、生活に寄り沿う多くの工芸作家を生み出しました。本展では現代の生活空間、生活スタイルを軸とした工芸作家の作品が全国から一同に伊賀の地に集まります。

7.11（土）

↓

7.26（日）

OPEN10:00～18:00
（最終日 16:00）

入場無料



会場 史跡旧崇広堂（伊賀市上野丸之内 78-1）
 出展 全国の工芸作家約 40 名
 企画 gallery yamahon 山本忠臣

『捕食』 Yuki Tsunoda Glass Exhibiton

2013 年より硝子昆虫作家として活動しているつのだ ゆきの個展になります。

食べることは生きること。捕食をテーマに生き物たちの生きることへの力強さや美しさを、精巧に作られたガラス作品を通して感じていただきたいです。

8. 1（土）

↓

8.10（祝）

OPEN10:00～18:30
（最終日 16:00）

入場無料



会場 赤井家住宅（伊賀市上野忍町 2491-1）
 出展 つのだ ゆき（硝子昆虫作家）

ぶんと事業課スタッフの クラシックいろは談



服部保之

友田律子

吉川和義

——ぶんと(伊賀市文化都市協会)が様々な文化まちづくり事業を企画・実施する中で、最も力を注いでいるのが2015(平成27)年度から取り組む「地域のクラシック人口1%を目指そうプロジェクト」です。

友田 一般的な例えですが、総人口に対して1%のクラシック音楽ファンがいる都市は、音楽文化が盛んと言われています。しかし、都会ならまだしも、人口が絶対的に少ない地方都市ではまだまだ「クラシックは堅苦しい」「とっつきにくい」というイメージが先行し、「チケットも高い」となれば、それは難問でした。過去にも何度か伊賀市文化会館でコンサートを開催してきましたが、1200席のホールを埋め尽くすクラシックコンサートは数えるほどでした。

吉川 でも、1%と言えば伊賀市の場合約1000人。その人たちが毎回コンサートに来て「クラシック音楽を聴いたら、心が暖かくなった」なんて感動してくださることを願って、このプロジェクトを始動しました。いわば、ぶんとの新たな「挑戦」でした。

服部 プロジェクトの中核は、初心者に門戸を広げ、解説付きの親しみやすいコンサートを継続的(年間4回)に催す—という企画内容で始めた「クラシックのいろは」だったね。3年目の2017年度に出演依頼した大阪交響楽団とは今も良好な関係を保ち続けている。常任指揮者だった寺岡清高さんに初めてこの企画を持ちかけたときの返事が、「1万人を目指す訳ではない。1000人を目標にしてコンサートを続けること、その可能性を追いかけることに意味があると思う」だった。この言葉に随分励まされたのを、今でも覚えている。

友田 「クラシックのいろは」はクラシック音楽の変遷を作曲家とその名曲でたどるのがコンセプト。バロックから始め、古典派、そして昨年度からロマン派…と、音楽の時代を追ってきました。毎回、演奏前にナビゲーターとして解説してくださる寺岡さんの話の分かりやすさも定評があり、お客さまにも年々新しい顔ぶれが増えてきました。



寺岡氏(中央)



ホールコンサート(アンサンブル)



ホールコンサート(オーケストラ)

吉川 ホールコンサートだけでなく、伊賀地域を中心とした若い音楽家たちの発掘にも力を注ぎ、さらには、地元伊賀コミュニティオーケストラの鳥居明夫さんを講師に招いた音楽講座にも手を広げてきました。

服部 概ね2カ月に1回開催するワンコインの「bimonthly Concert (バイマンズリーコンサート)」と、「なるほど〜クラシック」だね。

友田 こうしてみると、可能性を追い求めて結構いろんな取り組みをしているんだなあと思います。

吉川 一方で、ご高齢のファンが多いことに気づいたのでした。

服部 企画がギリ貧になるのも怖いことだった。

吉川 そこで発案したのが、「マタニティのためのコンサート」。

友田 きっかけは「いろは」を聴いた妊娠中のお客様のアンケートの記述。「いつになく胎動が激しく、おなかの赤ちゃんと一緒に音楽を楽しむことができた」でしたね。

吉川 音楽の実力みたいなものを実感した瞬間でした。「いろは」に加えて一昨年からマタニティが対象の「おなかのなからクラシック」を始め、昨年には「ぶんとチャイルドクラシックプログラム」へと進化させてきました。胎児とママ、そして子どもの成長に合わせた段階別のプログラムを組み、それぞれの年代に適した音楽の楽しみ方を提供する。そんなプログラムを年間11回も企画したのでした。

友田 クラシック音楽のファンをつくるため、点から線へと世代がつながることが重要だと考えました。暮らしの中にいつも音楽があり、それが人々の心の糧になったり、将来の目標になったり、毎日を生きる楽しみになったり…いろんな可能性を秘めているのが、音楽だと思うからです。

吉川 そう。僕たちの仕事は、きっかけをつくること。文化の芽が育つことを願って、広い畑に種を蒔くこと。すべての事業においてそう

確信しています。

服部 だから、ホールだけでなく街にも積極的に出ているよね。

友田 地道に手を広げてきたことの証かもしれませんが、これまで直接関係がなかった観光や鉄道など様々な分野からイベント開催の声が掛かるようになったのです。そこでは、地元で育った音楽家たちが演奏によって市民のみなさんと触れ合いを深め、イベントを盛り上げてくれています。

吉川 クラシック音楽を通じて世代をつなぐには、小中学生や高校生へのアクセスが欠かせません。次なる段階は、そこだと思っています。

服部 少し話題を変えましょう。伊賀市では昨年以降、文化政策の大きな動きがあった。文化振興ビジョン、文化振興条例が相次いで制定可決されたが、その政策を担う実働部隊の中心はぶんとだ、という認識を持ちたいと思う。

吉川 ビジョンには、様々な団体が有機的につながることの必要性が謳われています。僕たちが蒔いた種を、いろんな団体や学校、地域の人々と一緒になって育てる。それには時間がかかるかもしれないけど、地域を盛り上げていくためには文化の力が必要だと考え続けたいと思っています。

友田 文化には、新しい地域の形をつくる力がある。それを信じてこれからも頑張ろう、ということですね。

服部 現実目に移せば、新型コロナウイルスの問題が横たわる。思い通りに進まない日々の暮らしの中で、「文化どころじゃないよ」と思われる方が多いかもしれません。しかし、私たちは絶対にコロナには負けません!!

友田・吉川 やがては「伊賀といえば、クラシック音楽の街」と呼ばれるような地域づくりをしたいと願っています。みなさんのご理解とご協力をお願いします。



コンサートトレイン



チャイルドクラシック



なるほど〜クラシック



bimonthly Concert

BUNTO TICKET

新型コロナウイルスの感染症の拡大状況によっては、変更する場合があります。

8月30日(日) 開場 13:30
開演 14:00

bimonthly Concert Vol.21
ロマン派音楽 ~愛のうた~

ソプラノ 五百田真実
ピアノ 武政有里佳

シューベルト:糸をつむぐグレートヒェン
ブラームス:ワルツOp.39 ほか

■会場 伊賀市文化会館

一般 500円
自由席 6/13(土) 発売



9月19日(土) 開場 13:15
開演 14:00

クラシックのいろは 2020
ブラームスを究める Vol.2

室内楽で聴くブラームスの情熱と気品①
ブラームス:ホルン三重奏曲
ピアノ三重奏曲 ほか

■会場 伊賀市文化会館

単発指定 1,800円
(7/26発売)
一般 1,500円
高校生以下 500円
ペアチケット 2,400円
自由席 発売中



Vn 岡本伸一郎
Vc 増山 頌子
Hr 細田 昌宏
Pf 原 由莉子



ナビゲーター
寺岡清高

7月12日(日)・8月8日(土)

TOUCH THE STEINWAY
憧れのスタンウェイが弾ける

■青山ホール 7月12日(日)
■あやま文化センター 8月8日(土)

開催時間 各日10:00~17:00

- 演奏時間 30分
- 参加費 1枠=500円 ※1枠に2名まで
・青山ホールは2台のピアノ同時演奏も可能。
参加費:1枠(60分)=2,000円 ※1枠に4名まで
- 募集人数 各14枠 ※先着順とし、定員になり次第締切
- 申込方法 6月20日(土)11:00から電話受付
●青山ホール ☎52-1109(水曜休館)
●あやま文化センター ☎43-1125(月曜休館)
- ※音楽教室のレッスンや発表会としての利用はできません。
※受付初日は1回のお電話で2枠まで(2台利用の場合は1枠のみ)の受付とします。



ぶんと

YouTube

始めます。

新型コロナウイルスが長い間
世間を騒がせていますが、
BUNTOは負けません!!



ぶんと坂井が担当

お家で退屈な時間をお過ごしの皆様、ぜひ一度ご覧ください。
きっとワクワク!ドキドキ!するはず……知らんけど。

ホールこれから情報

校正時点での情報です。催しについては、それぞれの催しの主催者へお問い合わせください。

あやま文化センター

日付	催物名	入場料	主催/問合せ先
6月14日(日) 10:00~	タッチ・ザ・スタインウェイ	500円 (要予約)	☎43-1125 (あやま文化センター)

青山ホール

日付	催物名	入場料	主催/問合せ先
7月11日(土) 13:00~	福祉大会	無料	青山老人クラブ連合会 会長 松本新一 ☎52-0480
7月12日(日) 10:00~	タッチ・ザ・スタインウェイ	500円 (要予約)	☎52-1109(青山ホール)

ぶんとフィットネス教室の中止について

開催を予定しておりました以下の講座を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、また、ご参加いただく皆様等の健康を第一に考え、8月末まで中止することといたしました。9月以降の開催につきましては、次号の本誌やホームページに掲載いたします。なお、新型コロナウイルスの感染症の拡大状況によっては変更する場合があります。楽しみにして下さっていた皆様には大変心苦しい思いではありますが、どうかご理解くださいますようお願い申し上げます。

- エアロビクス ○マットエクササイズ ○トランポリズム ○ピラティス ○THE SLOW®リンパドレナージュ体験教室
- ラテン系フィットネスZUMBA ○Let'sYOGAin文化会館 ○Let'sYOGAin市民体育館 ○夜しあわせヨガ

「ぶんとフィットネス教室」動画配信

「ぶんとフィットネス教室」YouTubeチャンネルを開設しました!

各講座の講師が、お家でできる簡単エクササイズを番外編としてご紹介♪ぶんとHPからも視聴可能です。



LINE公式アカウント

LINE公式アカウントでは、ぶんとフィットネス教室の最新情報をお届けしています!お友達登録をお待ちしています♪



〈伊賀市文化会館の受付時間の変更について〉

伊賀市文化会館の受付時間を下記のとおり変更させていただきました。
施設利用の受付、チケット購入は下記の時間内をお願いします。
受付時間 午前9時から午後6時まで(夜間の施設利用がないときは、午後6時で閉館します)

〈お問い合わせ〉

(公財)伊賀市文化都市協会 ☎0595(22)0511 Fax0595(22)0512 <http://www.bunto.com>
伊賀市文化会館 ☎0595(24)7015 青山ホール ☎0595(52)1109
あやま文化センター ☎0595(43)1125

次回の発行は8月1日号になります。